

SEA TRIAL

# MY ORDER

*TARGA 37 CUSTOM*

北欧フィンランド生まれの「TARGA(タルガ)」のプロダクションモデルを、  
新造時にビルダーの手によってオーナーの要望通りにカスタマイズさせた「TARGA 37 Custom」。  
自分自身の使い方、遊び方を理解していないと決してできないこだわりの数々。  
素晴らしいパフォーマンスは活かしつつ、“オーナー好み”のボートへ変貌を遂げた究極の一艇である。  
東京湾奥にてシートライアルを行った。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada  
special thanks: WINCKLER <https://yacht-w.com>



## 徹底したこだわりと“TARGA 愛”から生み出されたカスタマイズボート オーナーこだわりのヘビーデューティーを具現化した、唯一無二の一艇

東京湾奥からまるで小型の掃海艇のようなダークグレーの船舶が、真正面から接近してくる。なんだろう、あの船は？ その10数秒後、目の前を通りすぎたボートの舷側には自衛艦のような「1001」のシャドー付きの白文字。ブリッジ脇に描かれた「TARGA 37」の文字を見て愕然。初めて、「TARGA 37 Custom」を目撃した瞬間だった。

「TARGA (タルガ)」はフィンランド製ボートの代表的なブランドのひとつ。1976年に創業した「Botnia Marin」によって建造されている。逆傾斜したフロントウィンドウが目を引く北欧スタイルのパイロットハウスと、使い勝手の良いウォークアラウンドのデッキレイアウト。トラディショナルな雰囲気とハイパフォーマンスを実現する数々の名艇が生み出されてきた。現在は23～46フィートのレンジで9サイズ12モデルのプレジャーボートを建造、さらに水上警察、コーストガード、レスキュー、交通艇、作業艇などさまざまな種類のワークボートも建造している。

\*

「TARGA 37」は1998年に1号艇がデビューした歴史あるモデル。TARGAブランドの中でも“定番”と言えるモデルで、長い歳月をかけてマイナーチェンジを繰り返し、完成度、熟成度を上げてきた。そして今回紹介する「TARGA 37 Custom」は、既存オーナーの強い要望を受けてプロダクションモデルを大幅にカスタマイズしたもの。もともとオーナーは23フィートの国産艇でボート遊びを始め、「TARGA 27.1」、「TARGA 30.1」と乗り継いできた人物。特に初めてTARGAに乗った際にはその走りの良さに驚かされたと言う。

やがて「TARGA 27.1」では多人数を乗せる際に手狭になり「TARGA 30.1」へ。さらに次はキャビンの広さを求めていたところで、昨年のデュッセルドルフボートショーにて「TARGA 37」を内覧。そのモデルを自分の使い方に合わせて特別にオーダーしてでき上がったのが、今回の「TARGA 37 Custom」である。これで3艇目のTARGA。TARGAにとことん魅せられたオーナーは、まるで子どもの頃のプラモデル作りのよ



うな感覚でカスタマイズを楽しんだそうだ。自分自身のボートの使い方、遊び方が分かっている人にしかできない、細かなこだわりの数々が施されている。

スタンダードモデルの「TARGA 37」は、全長12.36m、全幅3.50m、喫水1.10m、重量8.2tonというハルに豊富なエンジンバリエーションが用意されている。スターンドライブの場合、VOLVO PENTAの260馬力×2基～400馬力×2基まで5種類。IPSの場合、300馬力×2基～435馬力×2基まで3種類が揃う。

デッキレイアウトは中央に大型パイロットハウスを配置したウォークアラウンドタイプ。パイロットハウス上にはフライブリッジを設置可能で、従来モデルより広々としたHi-Fly仕様もチョイスできる。またアフトデッキを半分程度覆うハードトップルーフがオプション設定としてある。パイロットハウスは前寄りの両サイドドアのみの2ドア仕様、または両サイドドアとアフトドアの3ドア仕様を選べ、サロンの他にフォアキャビンとミジップキャビンが用意されている。フォアキャビンについては、ヘッドクリアランスが180cm以上あるCFC (Comfort Fore Cabin) 仕様もチョイス可能だ。以上がスタンダードおよびオプション仕様のあらまし。もちろんそれぞれにさまざまなファブリックが用意されている。



ハードトップ上の広大なオープンデッキはフルチーク張り&チークレールで全体を囲う。前方のレーターマストは特注で可倒式に変更。ギャングウェイゲートも設け、高い位置の岸壁などへのアクセスも可能にした。



アフトデッキ、フォアデッキともにフルチーク。アフトデッキは全体をロングタイプのハードトップルーフで覆う。アフトデッキのフロアハッチを開ければエンジンルームへのアクセスも楽だ。スイミングプラットフォームにはレールを設け素晴らしいフィッシングスポットとした。ハンモックを設置可能なフックも用意されている。



パイロットハウス内はウッドを多用した暖かな雰囲気。右舷にカウンター、左舷のダイネットはソファベッドにアレンジ可能だ。右舷前方にヘルムステーション、左舷にパッセージャーシート。ヘルムスからの視界は全周にわたって見やすいが、さらにFURを使って真後ろの映像もモニタリング可能。走行中もほぼ360度の視界が確保されている。

さて「TARGA 37 Custom」だが、パワートレインは最大出力となるVOLVO PENTA D6-400、400馬力を2基掛けしている。スターンドライブは電子制御モデルとなったDPIを採用、スラスタと合わせたシームレスなジョイスティックコントロールや、定点保持 ダイナミック・ポジション・システムが可能である。各種機装やカスタマイズの結果、スタンダードモデルより重くなっており、喫水も少し深くなった。

東京湾奥のマリーナを出航、開けた水域でシートリアル。DPIのおかげでスロットルおよびステアリング操作は非常に軽くなりスムーズ。回転を上げていってもほぼ狙い通りの回転数にびたっと収まるのは電子制御ならではの。30kt前後のクルージングスピードでコントロール。スラロームしても挙動は素直で、急旋回では鋭くヒールしながら実にきれいに曲がる。

さらにスロットルを押し込む。36～37ktがトップスピード。この状態でも挙動はクルージングスピードと差がない。スターンドライブらしい軽快な動きで、高速走行中もとても素直にコントロールできる。安定感と落ち着きすら感じさせてくれる。自身の引き波に突っ込んでも、押しつぶすように波を分け、衝撃はいたってソフトだ。普通に走る分には全くスプレーも上からずデッキはドライ。低速での動きの良さ、シフトチェンジの際の衝撃の劇的な低減など、DPIは非常にメリットが多い。

これまで、スタンダードの「TARGA 37」、3ドアCFC、Hi-Fly仕様には、フィンランドのNauvoで2018年に試乗している。その時も同じパワートレインで、やはり安定して落ち着いた走りが印象に残る。トップスピードは42ktという驚くべきもの。もっとも公式データによると「TARGA 37」のトッ

プスピードは38kt。今回の「TARGA 37 Custom」についてもほぼカタログスペックに近いスピードが出ている。マリーナへの復路、下げ潮の時間帯にもかかわらず37.3ktまで出ており、コンディション次第ではもう少し伸びそう。重量、喫水ともスタンダードより増加していることを考慮すれば、想

像以上のパフォーマンスだ。

\*

ハルやパイロットハウスのカラーリングは、軍用艇のようなダークグレー。通常のTARGAにはない特色である。船底も軍艦のような赤錆色

フォアキャビンのレイアウトはノーマルタイプで、電動トイレコンパートメントを追加。ミジップキャビンは左右にセパレートされた2バース仕様。共用ヘッドはミジップキャビン後部に配置されている。





素晴らしい走行パフォーマンスを見る。高速急旋回でも非常に安定しており、ゲストにも優しい。スプレーもほとんど上がらず走行中はいたってドライ、かつ騒音も少なくトップスピードで走行中もキャビン内で会話を楽しめる。

を出すために黒と赤の塗料を混ぜた特注だとか。デッキはフルチーク、それを特注のワイドチークレールで囲う。パイロットハウスはアフトドア付きの3ドア仕様。フォアキャビンはノーマルで、電動トイレコンパートメントを追加。アフトデッキは、通常のオプションよりも長いトランサムまで伸ばしたハードトップルーフによって覆われている。

ハードトップへのアクセスステップ1段目は10cm下げて日本人にも行き来しやすくアレンジ。面白いのはハードトップ上のオープンデッキ。一面チークデッキに変更し、チークレールで囲っている。両サイドにはギヤングウェイゲートも設け、高さのある岸壁などへのアクセスにも対応。このオープンデッキの最前部にはレーダーマスト、FLIR、AISなどを装備。さらに川にかかる橋（桁下高5.5m）を抜けるためにレーダーマストは可倒式だ。しかもヘルムステーションから開閉可能なガラスハッチにより、オープンデッキに上がらずとも簡単にマストが倒せる。スミングプラットフォームはFRP化し30cm延長。レールで囲い、素晴らしい



フィッシングスポットへと変更した。

「TARGA 37」はもともと高いブルワークトップにチークレールを配しているため、子どもが乗っても落水の危険は少ない。ゲストの中には子連れのケースもあるので、安全性や安心感の部分にもこだわったそう。なるほどTARGAを乗り継いできた人だからこそのこだわりであり、自分自身の使い方が確立された人ならではのカスタマイズだ。北欧ではヘビーデューティーシーンでも使われている「TARGA 37」、それをとことん自分好みにアレンジした一艇。これに対応するBotnia Marinも流石である。P.B.

#### TARGA 37

全長 12.36 m  
 全幅 3.50 m  
 喫水 1.10 m  
 重量 8.20 ton  
 エンジン 2×VOLVO PENTA D6-400/DPI  
 最高出力 2×400 HP  
 燃料タンク 1,350 L  
 清水タンク 230 L  
 問い合わせ先 ウィンクレル TEL: 045-681-0104  
<https://yacht-w.com>



YouTube



YouTube